

次期国立大学法人等施設整備計画策定に向けた中間まとめ 概要

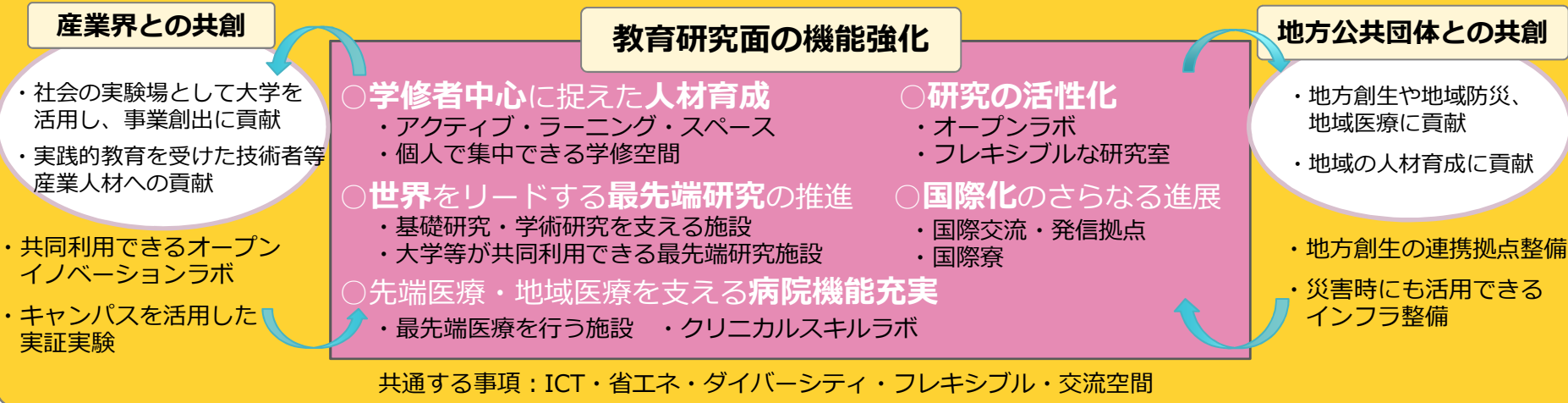
(令和2年7月 今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議)

社会の
期待

- 学修者本位の教育への転換や世界をリードする最先端研究の推進など、国立大学等の本来的な役割である「教育研究の機能強化」とともに、それによる「地域・社会・世界への貢献」が求められている。
- 国立大学等は、知と人材の集積拠点として、社会の様々なステークホルダーとの連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点となることが期待されている。

施設の
役割と
方向性

キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」へ



課題と
今後の
取組

- 国立大学等の施設はこれまでの投資により、**全国的に配置**された我が国**最大かつ最先端の知のインフラ**であり、最大限活用することが重要
- 第4次5か年計画では、**老朽改善整備が当初の整備目標の25%にとどまる見込み**であり、建物やライフラインの**老朽化が深刻な状況**
- 次期計画においては、**既に保有している大量の施設を最大限活用**することが重要であることから、「戦略的リノベーション」等による**老朽改善の加速化が必要**
- 今後、最終報告に向け、次期計画期間における整備目標と所要額の試算が必要

提言

- 「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の実現に向け、国立大学等と国が協力しつつ、役割を果たすことが必要
＜国立大学等＞ **計画的な施設整備の実施、施設マネジメントの推進、多様な財源の活用、地方公共団体・産業界との交流**
＜国＞ 老朽改善の加速化をはじめとした**必要な予算の確保、多様な財源の活用推進、制度改正・運用改善、社会全体に対する理解増進**

国立大学等が教育研究機能を強化・発揮することで、我が国の未来を拓き、我が国の成長・発展を支える